

情報連絡員報告・6月分

前月と比べ、全産業計で5項目のDIが改善

～売上高、収益状況、資金繰り等好転～

< 東京都中央会 >

6月の情報連絡員報告によると、前月と比べ、全産業計で調査項目の9項目のうち、5項目（売上高、在庫数量、取引条件、収益状況、資金繰り）のDI（前年同月比）が改善した。しかし、特記事項では引き続き、原油の高騰を原因とする原材料の値上げに苦しむ中小企業の現状が報告された。また各業種で高齢化や仕事量の減少による廃業を理由とした組合員の減少が報告された。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

< 特記事項欄より >

「食料品」

- ・鳥インフルエンザの影響で豚肉・牛肉が値上がりしている。食べ残す人が多くなったのか、全体的に弁当のグラム数が減っている。

「繊維・同製品」

- ・高齢化、仕事量の減少による廃業で組合員が減少している。加えて工賃がどんどん値下げされ、生活するだけの収入が得られなくなっている。

「印刷」

- ・組合員数の減少が相変わらず続く。4月から25社減少した。9月から資機材の値上げが予想され、価格転嫁の難しい中小企業は一段と厳しい経営状況と

なる。

「化学ゴム」

- ・業界としての景況は徐々に上昇している。出荷数量・金額ともに上昇傾向。原料の高騰はやや落ち着いたが、いまだ安心はできない状況にある。

「窯業・土石製品」

- ・ここ数ヶ月連続して変化が見られない低水準の低空飛行状態にある。公共工事の縮減の結果、今後の競争激化が懸念される。

「鉄鋼・金属」

- ・大手セットメーカーは今までの銅価の値上げを一切認めないため、採算悪化に苦しんでおり、受注がなくなる覚悟で値上請求をせざるを得ない状況とな

っている。

- ・受注の減少による事業廃止が続出。事業所の跡地利用が土壤汚染対策法の環境確保条例により制限され、土地利用が進まない。
- ・景気の回復基調が業界にとって深刻な状況をもたらしている。材料の相場が上昇を続けていることに加えて高炉・電炉メーカーが自動車業界やアジアへの輸出を重視しているため材料が入手難になっている。

「卸売業」

- ・依然として仕入価格の上昇分が販売価格を上回り悪化のまま推移。今後も同様の傾向と予測される。

「小売業」

- ・景況が停滞しており、組合員の経営は厳しくなっている。売上が伸びず、店

舗を縮小もしくは撤退する組合員が目につくようになってきた。

- ・原油高を受け、石油化学各社は昨年より5回目という異例の頻度で値上げをしている。販売業者レベルでの値上トレンドは止まりそうもない。
- ・酒飯店の増加と低価格による利益の減少にともない組合員の経営は困難となっている。組合の脱退者が1月から4月で140名となった。

＜要望事項欄より＞

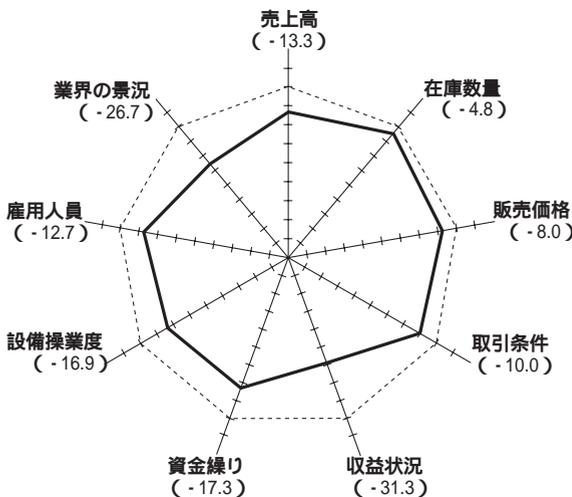
- * 海外製品の粗悪品が業界外から大量に入り、帽子のイメージを悪化させている。規制が必要である。

[繊維・同製品]

- * 米国産牛肉の早期の輸入制限解除を望む。

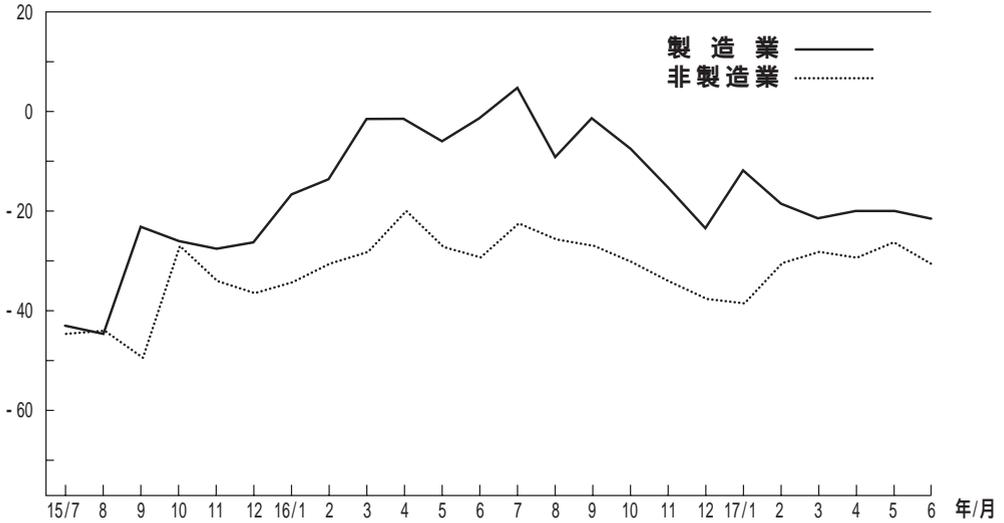
[卸売業]

6月のレーダーチャート（全産業、前年同月比DI値）

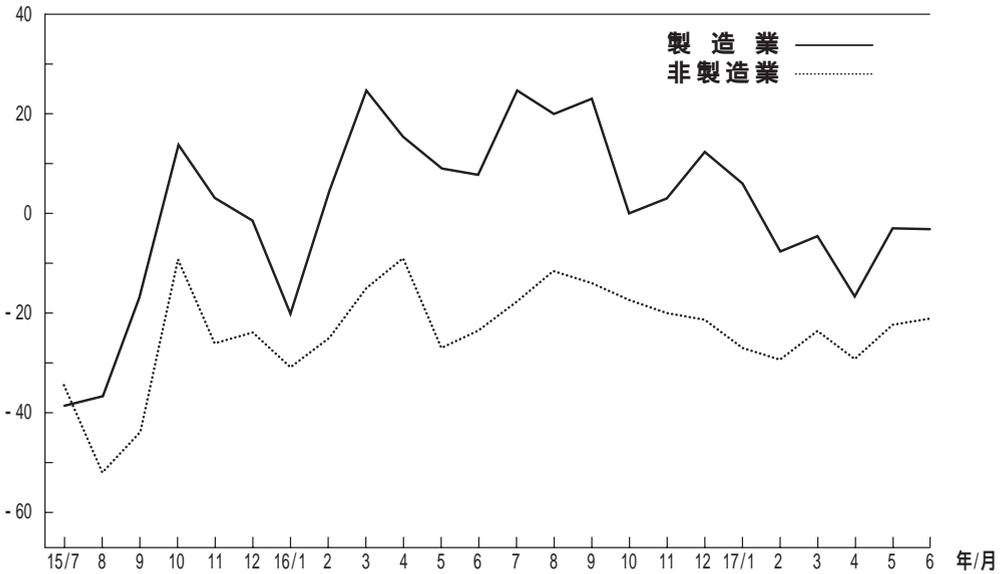


(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

業界の景況DIの変化 (H15.7 ~ H17.6)
(前年同月比)



売上高DIの変化 (H15.7 ~ H17.6)
(前年同月比)



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。